

週刊 武四郎

●毎月第三週は、
松浦武四郎のお友達に
についてご紹介します

第2号

2018年(平成30年)4月18日(水)
発行・松阪市

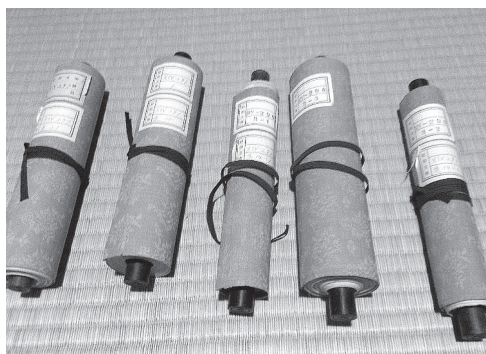
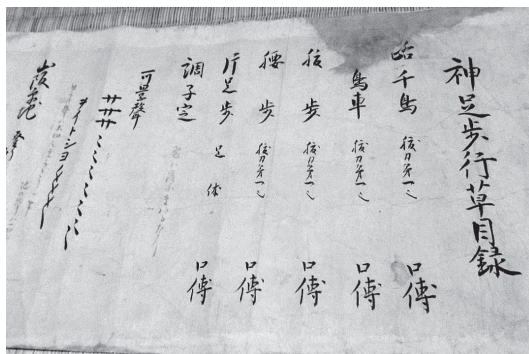
監修・松浦武四郎記念館

竹川竹斎という偉人

竹川竹斎、といっても知る人は少ないことでしょう。竹川家は松阪商人のルーツみたいな豪商(両替商)です。松阪商人の特徴として、天下国家の行く末に心を砕き、世の中が安泰でないといと商売も繁盛しないという考え方があります。竹斎は万巻の書を集め「射和文庫」を創設した文化人であり、灌漑用水を作って農民に「稼ぎ癖」をつかせようとした民政家でもあり、また明治以降は幕臣救済のために静岡に茶畑を広め殖産興業につとめた人でもありました。実は竹斎は、勝海舟の思想的バックボーンのような存在で、またパトロンでもあったのです。太平洋を横断した海舟がアメリカで写した写真の大刀は竹斎からプレゼントされたものでした。

この竹斎さんに、武四郎さんは少年時代、多大な影響を受けたと思われます。武四郎少年十五歳の時、すでに竹斎さん主催のイベントにその名を残しているのです(詳細は、次週に)。竹斎さんは、天文方高橋景保の作った世界地図……新訂万国全図を、弟(のちに国分家を継いだ国分勘兵衛)と共に写しています。この写本は方々に残っていますが、竹川家の地図が特別なのは、そこに朱線で『西洋人コーク航海路』が描き加えられている点にあります。西洋人コークというの、なんとキャプテン・クックのこと。武四郎少年も、この『コーク航海路』を指でたどりながら「世界」に思いを馳せたのでしょうか。

もうひとつ、武四郎さんは少年時代、もしかしたらこの竹斎

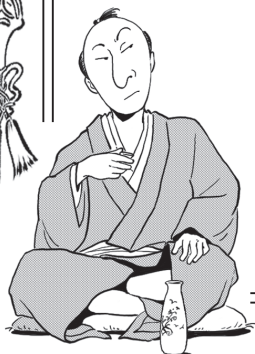


▲神足歩行術の秘伝書 射和文庫蔵

さんから「神足歩行術」という不思議な速歩法を学んでいたかもしれないのです。現在でも竹川家にはたくさんさんの秘伝書と思われる巻物が残されています。おそらく免許皆伝の者に授けていたのでしょう。大事なところは「口伝」としか書かれていませんが、掛け声や呼吸法が細かく記されています。『人との出会いで、人は大きくもなるし小さくもなる』といいますが、まさに竹川竹斎との出会いが、松浦武四郎を大きな人物にしたといえそうです。

松浦武四郎 (1818～1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として「北海道」のもととなる「北加伊道」を含む6案を政府に提案したことから「北海道の名付け親」と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

